

環境マネジメントシステム適用範囲

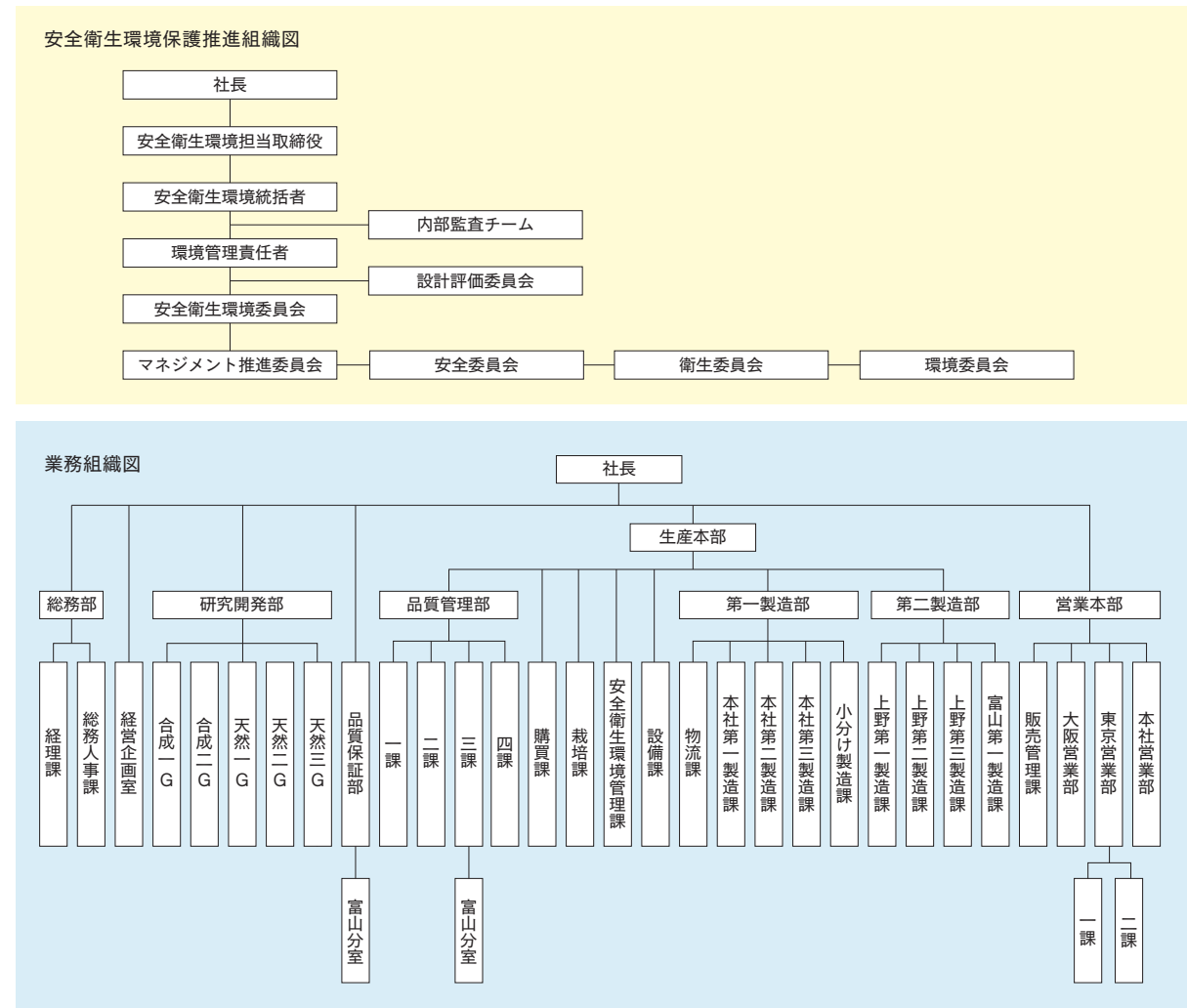
1. 適用する企業活動

- ・医薬品原料、食品向原料及び化粧品原料の製造
- ・医薬品原料、食品向原料及び化粧品原料の営業・販売
- ・医薬品原料、食品向原料及び化粧品原料に関する研究
- ・医薬品原料、食品向原料及び化粧品原料の輸入・販売
- ・薬用植物の栽培および採集

2. 適用するサイト

本社・研究所	〒509-4241 岐阜県飛騨市古川町向町二丁目 10 番 50 号
上野工場	〒509-4263 岐阜県飛騨市古川町上野 8 番地
富山工場	〒939-2366 富山県富山市八尾町保内 2 丁目 4 番地
東京営業部	〒103-0004 東京都中央区東日本橋二丁目 15 番 4 号 PMO 東日本橋 6 階
大阪営業部	〒541-0044 大阪府大阪市中央区伏見町 3 丁目 2 番 4 号 淀屋橋戸田ビル 3 階

3. 適用する組織



各組織図に示す従業員及び駐在外部社員に適用する

環境活動のあゆみ

平成 11 年 11 月	上野工場、富山工場 ISO14001 認証取得
平成 13 年 7 月	本社工場 ISO14001 認証取得
平成 16 年 7 月	S G S 社による更新審査
平成 19 年 6 月	S G S 社による更新審査
平成 22 年 6 月	J A C O 社による更新審査
平成 25 年 5 月	J A C O 社による更新審査（東京営業所、大阪営業所も審査対象へ）
平成 28 年 6 月	J A C O 社による更新審査
平成 29 年 6 月	J A C O 社による維持審査
平成 30 年 6 月	J A C O 社による 2015 年度版移行審査・認証取得
令和 元年 6 月	J A C O 社による更新審査
令和 2 年 7 月	J A C O 社による維持審査

アルプス薬品工業株式会社
<http://www.alps-pharm.co.jp/>

2020

Environmental Activity Report

環境活動報告書

アルプス薬品工業株式会社
 Alps Pharmaceutical Ind.Co.,Ltd

ごあいさつ

地球のために

私たちが果たすべき責任と役割

私たちアルプス薬品工業は、”医薬品メーカーとしての自覚と誇りを持ち、最良の技術で、お客様にとって最高の製品を提供し、世界に貢献する”の企業理念のもと、お客様に高品質で安心して使用して頂ける製品を提供し続けるとともに、安心、信頼を得られる様に全社一丸となって日々努力して参ります。

当社は、医薬品原料の製造において、環境負荷の削減に努め、廃棄物の削減やリサイクル化、省資源・省エネルギーの推進活動も積極的に行っております。また、国内外の環境に関わる法規制及び当社が受け入れた要求事項を順守し、地域社会とのコミュニケーションを図るなど、当社の環境方針に従い、社会に対する責任を果たすべく取り組んで参ります。

世界的に環境問題への関心が高まっている現在、環境・健康・安全への配慮を経営上の重要課題ととらえ、EHS リスク改善を全社的に進め、広い視野に立った環境保全活動に努めています。私達の事業活動は、環境への影響を少なからず与えていることを正しく理解し、アルプス薬品工業が果たすべき責任と役割を認識し、環境保全活動を経営課題の一つとして取り組んで参ります。



代表取締役社長 牛丸 理

企業理念

Mission ミッション

ALPS の使命・存在意義

医薬品メーカーとしての自覚と誇りを持ち、最良の技術で、お客様にとって最高の製品を提供し、世界に貢献する

Vision ビジョン

ミッションをはたすための組織のあるべき姿

世界に誇れる ALPS 独自の価値を創造する

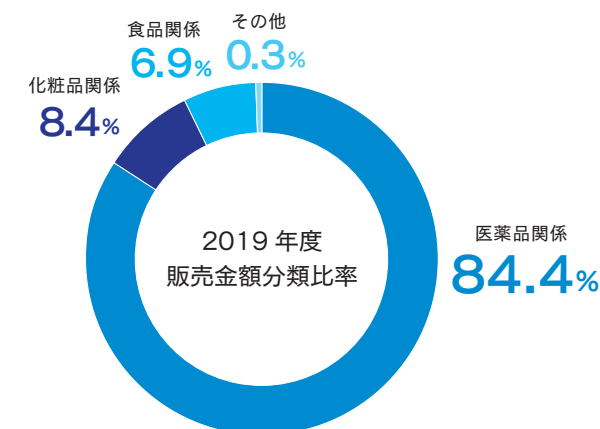
Value バリュー

ビジョン実現のため、大切にする価値観

1. 常に向上を目指し、自律的に行動する
2. 社会の視点・お客様の視点を大切にする
3. 現場・現物・現実にもとづき、本質を見極める
4. 失敗や変化を恐れず、チャレンジする
5. 議論とチームワークを大切にする
6. コンプライアンス、安全操業を徹底する
7. 従業員の成長を促し、幸福度を高める
8. 会社の成長を通じて、地域社会に貢献する

アルプス薬品工業について

会 社 概 要	2020 年 4 月現在
社 号	アルプス薬品工業株式会社
創 立	1947 年 7 月 31 日
本 社 所 在 地	〒509-4241 岐阜県飛騨市古川町向町二丁目 10 番 50 号
資 本 金	9,770 万円
従 業 員 数	338 名
主 な 事 業	医薬品用原薬の製造
主 な 事 業 所	本社工場、上野工場、富山工場、東京営業所、大阪営業所



記載対象期間：2019 年 4 月～2020 年 3 月

環境方針

1. アルプス薬品工業株式会社は、医薬品メーカーとして最良の技術で最高の製品を生産し、お客様に提供するため、環境影響に十分配慮し、継続的な環境負荷削減に努力いたします。
2. 国内外の環境に関わる法令及び当社が受入れた要求事項を順守し、事業活動を行います。
3. 環境保護のため、自主的な各種活動を継続して実施します。
4. 事業活動において生産性の向上を行い、廃棄物の発生の低減、リサイクル化、省資源省エネルギーの推進を行い、環境負荷の低減を図ります。
5. 環境リスクアセスメントにて環境リスクを把握し、環境管理の継続的な計画・実施・改善など、環境リスクマネジメントシステムの運用を通じて、環境リスクの低減活動を継続的に行います。
6. 生物多様性及び生態系の保護のため、自主的に各種活動を継続して実施します。
7. 地域社会との対話を図り、環境情報を適切に開示し、社会とのコミュニケーションを図ります。
8. 環境に関する教育訓練を充実し、自ら環境影響を考え行動する従業員を育成します。
9. 環境方針は、当社の全社員及び協力会社にも周知徹底し、社外へも公開します。

環境マネジメントシステム

当社では環境活動を効果的かつ持続的に取り組むため、環境マネジメントシステムの認証を取得し、継続的な活動を進めています。また、環境活動継続的改善のため、各委員会を活用し、議論、検討、対応を進める組織を構築しています。また、内部監査チームを設けて、マネジメントの公平性、妥当性を客観的に監査し、より良い活動へと繋げるため活動しています。



アルプス薬品工業の活動

当社では主に、医薬品原料を製造しており、エネルギーや原材料の消費や廃棄物の排出等でさまざまな環境負荷をかけています。そのことを認識し、全社的にリスク改善活動を推奨し、環境負荷の削減にも取り組んで事業活動を行っています。



環境への取り組み

■ センナの栽培

当社が企画提案した『ミャンマーにおける薬用植物センナの栽培事業化』が、国際協力機構（JICA）の「途上国の課題解決型ビジネス（SDGsビジネス）調査」の案件として採択され、2017年12月、JICAからの受託事業として本調査を開始しました。この調査をもとに栽培事業化を実現することによって、重要な植物資源を確保するとともに、SDGsのゴール10「格差是正」に貢献することを目指しています。

「センナ」は、当社主力製品である「センノサイド・カルシウム」の原料であり、センノサイド・カルシウムは緩下剤の原薬として世界中で使用されています。また、当社はこの原薬の世界シェア第1位を誇っており、安全で良質な医薬品原料を調達することは大きな責任でもあります。

一方、ミャンマーの中央乾燥地域では、容易に育つ作物が殆どなく小規模農家は十分な所得を得ることができていません。そこで、現地の環境に適したセンナを栽培し、加工生産等の事業活動を行うことにより、新たな雇用創出、貧困層の所得向上が可能であると考えています。現在、土壌分析や試験栽培を継続的に行っています。裸地を緑地化するという二次的な効果についてもその可能性を期待しているところです。



環境活動成果

当社本社工場、上野工場は省エネ法に基づく特定事業者の第2種エネルギー指定工場に指定されており、毎年、経済産業省（中部経済産業局）にエネルギー使用量等に関する定期報告書を提出していますが、その定期報告書に基づく事業者クラス分け評価制度において2016年度より2019年度まで連続でSクラス評価を受けています。又、優良事業者として経済産業省ホームページに当社名が掲載されています。

※事業者クラス分け評価制度（SABC評価）：Sクラス（省エネが優良な事業者）、Aクラス（一般的な事業者）、Bクラス（省エネが停滞している事業者）、Cクラス（注意を要する事業者）

当社環境方針に基づき、毎年、環境活動目標を定めて取り組んでいます。

分類	2019年度の主な活動成果
省エネルギー、省資源	老朽化設備更新及びスケールアップによる生産効率の改善 抽出方法・原料選定・機器改良・作業改善等により各種品目の製造効率改善 従業員一人ひとりが省エネルギー、省資源意識を持って活動推進
化学物質管理	新製造設備導入に伴い、製造で使用する有機溶剤を有害性の少ない溶剤へ転換 ドライ真空ポンプ導入によるメタノール含有排水削減および水処理施設への負荷軽減 排水ピット点検実施強化と、専門業者によるピット清掃及び内部点検実施
事故緊急時対応	災害、事故を想定した防災訓練、漏洩訓練の実施 自衛消防隊による緊急事態対応訓練の実施
環境リスクアセスメント	臭気、漏洩等の環境リスク低減と環境リスクの見直し実施 製造工程で発生する臭気の抑制対策の検討及び実施 高含量生薬自社栽培による、資源枯渇対策、環境負荷の低減実施
廃棄物管理	廃棄物搬出の適正化とリサイクル化の推進

事故緊急時対応

緊急事態の発生に備え、速やかに対応できるように、災害や事故を想定した防災訓練や漏洩対応訓練を実施しています。また、独自に自衛消防隊を構成し、訓練を行い、万が一の火災発生時に備えています。今後も、緊急事態に適切な対応ができるよう人材育成に取り組んで参ります。



緊急事態対応訓練（自衛消防隊出動）

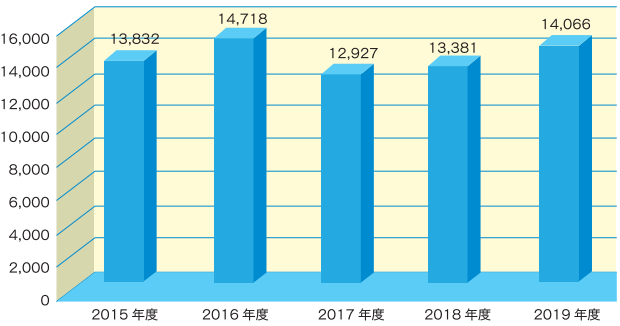


緊急事態対応訓練（水幕による延焼防止）



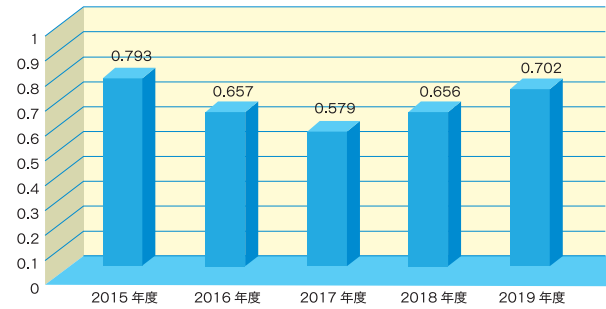
漏洩事故対応訓練

省エネルギー



■ CO₂年間排出量（単位：t）

CO₂排出量は、工場稼働率アップにより前年比+5%と増加しました。製造効率改善を進め、排出量削減に努めます。



■ エネルギー原単位年度別推移（単位：原油換算 L/千円）

エネルギー使用量原単位は、製品の収率や工場稼働状況により変動しますが、適切に管理しています。

環境活動成果一例

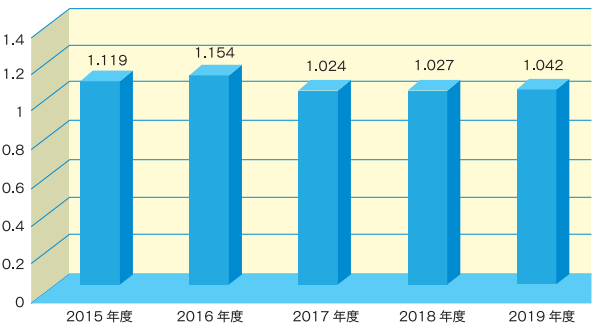


老朽化設備更新及びスケールアップによる生産効率の改善



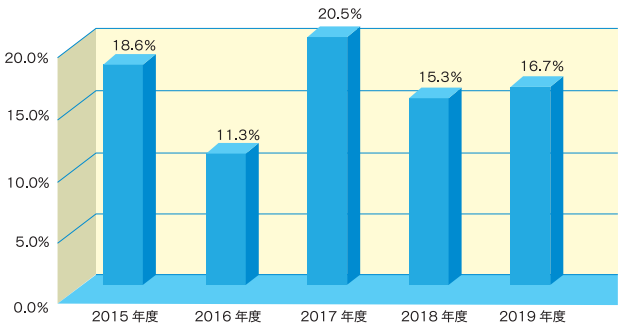
ドライ真空ポンプ導入によるメタノール含有排水削減

廃棄物管理



■ 廃棄物原単位（単位：kg/千円）

廃棄物の排出については、毎年削減に努めております。



■ 廃液リサイクル率（単位：%）

毎年、廃液のリサイクル化を進めております。

当社では生産活動において不要物として発生する廃棄物の有効利用と排出量削減に取り組んでいます。
また、リサイクル率向上のために、廃棄物の分別と有効利用に取り組んでいます。

再生利用堆肥



当社の廃棄物の中で最も発生量が多い動植物性残渣においては発生量のほぼ 100% を有効利用(肥料等)しています。

法面緑化の吹き付け材



道路建設や宅地造成などの開発行為に伴い、山地を削ったり、盛土をすることにより造られる人工斜面、または自然斜面のことを法面といいますが、その斜面が崩れないように落石予防、保護するために使用される材料となります。

定期測定

当社では環境基準の順守状況を監視するため定期的に、工場排水、煤煙、騒音の測定を実施しています。

2019 年度 各工場 工場排水測定結果

		本社工場		上野工場		富山工場	
項目	単位	規制値	平均値	規制値	平均値	規制値	平均値
pH		5.8～8.6	7.1	5.8～8.6	7.6	6.0～8.0	7.7
BOD	mg/L	25 (20)	4.8	25 (20)	8.3	20	<1.0
COD	mg/L	160 (120)	7.8	160 (120)	14.5	160 (120)	14.6
SS	mg/L	90 (70)	5.8	90 (70)	4.9	40	12.3
n ヘキサン	mg/L	5	<0.1	5	<0.1	5	<0.5
フェノール類	mg/L	0.5	<0.01	0.5	<0.01	0	－
ジクロロメタン	mg/L	0.2	<0.01	0.2	<0.01	－	－
大腸菌群	菌 /mL	－	－	－	－	3000	0
分析頻度		2 回 / 月		2 回 / 月		1 回 / 月	

本社工場、上野工場では月 2 回、富山工場では月 1 回排水の水質検査を実施し、適切な工場排水の確保に努めています。各工場ともに測定結果は規制値以下です。

2019 年度 煤煙測定結果

本社工場煤煙測定結果 (前期：2019 年 6 月 26 日、後期：2019 年 11 月 27 日)

対 象		煤塵 g/m³		SOx K 値		NOx V/Vppm		判定
		規制値	0.30	17.5	180			
①	No.2 貫流式ボイラー (H18 工場)	前期	0.028	0.17	59			㊟ 否
		後期	0.067	0.11	57			
②	No.3 貫流式ボイラー (H18 工場)	前期	0.029	0.31	67			㊟ 否
		後期	0.058	0.12	75			
③	No.4 貫流式ボイラー (H18 工場)	前期	0.027	0.32	72			㊟ 否
		後期	0.064	0.24	65			
④	No.5 貫流式ボイラー (H18 工場)	前期	0.031	0.36	76			㊟ 否
		後期	0.065	0.11	69			
⑤	No.6 貫流式ボイラー (H18 工場)	前期	0.027	0.28	91			㊟ 否
		後期	0.064	0.26	75			
⑥	No.7 貫流式ボイラー (H18 工場)	前期	0.024	0.29	85			㊟ 否
		後期	0.055	0.27	72			
⑦	温水ボイラー (事務棟)	前期						㊟ 否
		後期	0.004 未満	0.01 未満	99			

本社工場、上野工場の煤煙測定結果は、2 工場とも規制値以下です。また、上野工場廃液焼却炉のダイオキシン類の測定結果も規制値以下です。

上野工場煤煙測定結果 (前期：2019 年 6 月 25 日、後期：2020 年 3 月 6 日)

対 象		煤塵 g/m³	SOx K 値	NOx V/Vppm	HCl mg/m³	判定
	規制値	0.25	17.5	250	700	
廃液焼却炉 (K-B)	前期	0.084	<0.01	230	16	(合) 否
	後期	0.1	0.01	100	3.4	

2019 年度ダイオキシン測定結果 (2019 年 6 月 25 日)

対 象	排ガス ng-TEQ/m³N		燃え殻 ng-TEQ/g	処理水 pg-TEQ/l	ばいじん ng-TEQ/g
	規制値	5		10	－
上野廃液焼却炉	実測値	0.082	0.013	0.0049	

上野工場焼却炉水銀濃度測定結果 (前期：2019 年 6 月 12 日、後期：2020 年 1 月 24 日)

項目	単位	On	搬出基準	Os	6 月 12 日		1 月 24 日	
					測定結果	適・否	測定結果	適・否
水銀濃度	On12%換算値 ug/m³	12	50	11.2	0.046	適	0.017	適

上野工場廃液焼却炉の水銀測定の結果も規制値以下です。

2019 年度 騒音測定結果

本 社 工 場	時間区分	朝 (6:00～8:00)	昼 (8:00～19:00)	夕 (19:00～23:00)	夜間 (23:00～6:00)
	法規制値	60dB	65dB	60dB	50dB
	敷地境界線①	45.3	49.0	46.1	43.9
	敷地境界線②	45.4	51.0	45.5	45.7
	敷地境界線③	46.7	49.4	48.0	46.4
	敷地境界線④	48.3	52.0	51.9	49.0
	敷地境界線⑤	46.4	52.3	45.9	45.5
	敷地境界線⑥	46.3	50.5	49.2	49.1
	敷地境界線⑦	47.7	51.2	50.9	49.8

敷地境界線付近の騒音測定を定期的に行い、状況確認を実施しています。各工場ともに測定結果は基準値以下です。又、定点騒音測定機による連続測定も実施し常時監視しています。

※ 本社工場は、敷地境界線 7 箇所、上野工場は、敷地境界線 4 箇所、富山工場は、敷地境界線 5 箇所にて測定

上 野 工 場	時間区分	朝 (6:00～8:00)	昼 (8:00～19:00)	夕 (19:00～23:00)	夜間 (23:00～6:00)
	法規制値	60dB	65dB	60dB	50dB
	敷地境界線①	51.5	54.8	55.3	43.9
	敷地境界線②	54.6	56.5	54.4	45.7
	敷地境界線③	51.8	50.9	52.0	46.4
	敷地境界線④	53.3	52.9	55.3	49.0

富 山 工 場	時間区分	朝 (6:00～8:00)	昼 (8:00～19:00)	夕 (19:00～23:00)	夜間 (23:00～6:00)
	法規制値	－	－	－	63dB
	敷地境界線①	50.2	50.8	48.4	49.2
	敷地境界線②	51.5	49.5	52.9	49.2
	敷地境界線③	54.2	55.6	53.6	52.3
	敷地境界線④	56.9	57.9	53.8	52.5
敷地境界線⑤	56.8	53.4	47.2	53.2	



本社工場定点騒音測定機

苦情・問い合わせについて

2019 年度は、1 件の問い合わせがありました。

地域での活動

地域の清掃活動として、工場周辺の年 2 回の側溝掃除や道路のゴミ拾いを行い、地域の環境保全に努めています。

